

文学部A方式I日程・経営学部A方式I日程・人間環境学部A方式

## 3 限 選 択 科 目 (60 分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～36	世 界 史	38～51
地 理	52～63	数 学	64～66		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
  - ・解答を導く途中経過も書くこと。
  - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
  - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
  - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。

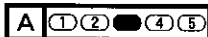
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

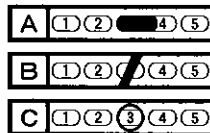
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (日 本 史)

〔I〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

藤原氏を外戚としない **A** 天皇は藤原 **1** の死後に関白をおかず、菅原道真を重用して藤原氏勢力を抑えようとした。次の **B** 天皇も摂政・関白をおかず、藤原 **2** を左大臣、菅原道真を右大臣として政治を進めたが、901年、**2** の策謀によって道真は大宰府に左遷された。930年に **B** 天皇のあとに即位した **C** 天皇の時期には、**2** の弟の **3** が摂政・関白となって政治を主導したが、**C** 天皇のあとに即位した **D** 天皇はふたたび摂政・関白をおかないようになった。**B**・**D** 天皇の親政が行われた時期は延喜・天曆の治とよばれ、律令政治の復興に努力が払われ、文化事業の面でも大きな成果があがったとされるが、実際にはこの間に承平・天慶の乱が起ころなど、やがて都や地方の政治が乱れ、律令にもとづく政治は衰退していった。

**D** 天皇の没後、969年に左大臣の源高明が左遷されると、藤原氏北家の勢力はもはや不動のものとなり、常置されるようになった摂政・関白の地位を独占し、**3** の子孫がその地位につくこととなっていった。摂政・関白は貴族のなかで最高の地位であるとともに、藤原氏の「氏長者」として一族を統率する権限もあわせもつこととなった。10世紀後半から11世紀にかけて、藤原氏が摂政・関白に引き続いて任じられ、政権の最高の座についていた時期の政治を摂関政治とよぶ。この時期の勢力争いは藤原氏内部で繰り返されたが、それに勝利した藤原道長・**4** 父子は摂関政治の最盛期をもたらした。

摂政・関白を出す家柄を摂関家といい、摂関家は天皇の後見人として権勢をほしいままにした。天皇の高い権威を背景にして、官吏の任免権に深く関わり、中・下級の貴族は摂関家を中心とする上級貴族に隷属するようになった。こうした状況のもとで、昇進の順序や上限は家柄や血縁関係によってほぼ決まってしまうようになった。なお、摂関家は国家の要職に就くことによって莫大な収入を得てお

り、とりわけ11世紀には寄進された莊園からの収入も増大した。中・下級の貴族たちは、<sup>g</sup>経済的な利益を求めて摂関家などに取り入り、国司となることを求めるようになっていった。摂関政治の時期には、形の上では天皇が太政官を通じて統一的な支配をおこなう体制が続いていたが、実際の政治は先例や儀式を重んじる形式的なものとなり、<sup>h</sup>宮廷では年中行事がさかんにおこなわれるようになり、そのいっぽうで、地方政治は国司に委ねられ、朝廷が地方政治に積極的に関与することは少なくなっていた。

問1 空欄  ～  に入るもっとも適切な天皇の名をつぎのA～タのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |      |      |       |       |      |
|------|------|-------|-------|------|
| ア 冷泉 | イ 文徳 | ウ 後一条 | エ 後朱雀 | オ 醍醐 |
| カ 一条 | キ 村上 | ク 後冷泉 | ケ 清和  | コ 三条 |
| サ 光孝 | シ 陽成 | ス 円融  | セ 朱雀  | ソ 仁明 |
| タ 宇多 |      |       |       |      |

問2 空欄  ～  に入るもっとも適切な人名をつぎのA～タのなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ア 師実 | イ 隆家 | ウ 良門 | エ 忠平 | オ 長良 |
| カ 基経 | キ 教通 | ク 頼忠 | ケ 頼通 | コ 師輔 |
| サ 高藤 | シ 道長 | ス 道隆 | セ 実頼 | ソ 良房 |
| タ 時平 |      |      |      |      |

問3 下線部 a について、 ・  両天皇の時期の事業の成果ではないものをつぎのA～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |            |          |
|------------|----------|
| ア 【日本三代実録】 | イ 【大鏡】   |
| ウ 【古今和歌集】  | エ 【延喜格式】 |

問4 下線部 b について、承平・天慶の乱に関する正しい記述をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 平将門は上総を根拠地として一族と争いを繰り返していたが、やがて国司と対立するようになり、常陸・下総・上野の国府を攻め落とした。

イ 平将門は関東一円を制圧し、自ら「新皇」と称したが、同じ東国の武士である平忠常・藤原秀郷らによって討たれた。

ウ 藤原純友はもと伊予の国司であったが、瀬戸内海の高僧をひきいて反乱を起こし、伊予国府や大宰府を攻め落とした。

エ 藤原純友は清和源氏の祖である源頼光らの軍に敗れ、逃れた伊予で斬殺された。

問5 下線部 c について、この事件を含む藤原氏による一連の他氏排斥事件を生じた年代の順序に並べた場合、もっとも適切な順序をつぎのア～カのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 承和の変 — 安和の変 — 応天門の変

イ 承和の変 — 応天門の変 — 安和の変

ウ 安和の変 — 応天門の変 — 承和の変

エ 安和の変 — 承和の変 — 応天門の変

オ 応天門の変 — 承和の変 — 安和の変

カ 応天門の変 — 安和の変 — 承和の変

問6 下線部 d について、この時期における摂関家内部の勢力争いの当事者でない人物をつぎのア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 藤原兼通      イ 藤原兼家      ウ 藤原伊周      エ 藤原仲成

問7 下線部 e について、「此の世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたることもなしと思へば」という歌を記録した貴族の日記は何か。つぎのア～エのなかからもっとも適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 【小右記】

イ 【御堂関白記】

ウ 【政事要略】

エ 【栄花物語】

問8 下線部 f について、律令制のもとでの官吏に関するつぎのア～エの記述のなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 高級官僚に与えられた封戸には位封・職封があった。

イ 位田・職田は位階や官職に応じて与えられた田地であった。

ウ 官吏には現物支給の季禄が年2回与えられた。

エ 官吏には調の負担が課されていたが、庸・雑徭の負担は免除されていた。

問9 下線部 g について、寄進地系荘園に関するつぎのア～エの記述のなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 寄進を受けた荘園の領主は領家とよばれ、この荘園がさらに上級の貴族や皇族に寄進されることもあり、この場合の上級の領主は本家とよばれた。

イ 開発領主は国司から官物や臨時雑役の免除を受けることができなかつたので、貴族や寺社に所領を寄進して、その免除を獲得するほかなかつた。

ウ 寄進を受けた荘園の領主のうち、実質的な支配権をもつものは本所とよばれた。

エ 荘園のなかには、国司の使者の立ち入りを認めない特権を得るものも多くなつた。

問10 下線部 h について、年中行事に該当しないものをつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 大祓

イ 灌仏会

ウ 闘茶

エ 七夕

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

応仁の乱以後、幕府の力は衰え、戦乱は全国に広がり、各地に戦国大名が登場するようになった。陸奥国の伊達氏は鎌倉時代以来の地頭であり、<sup>a</sup>陸奥国守護や奥州探題にもなって勢力をのばし、特に政宗の代に領土を拡大したが、<sup>b</sup>結局は豊臣秀吉に服従した。越後国では、守護家の家臣であった長尾景虎が主人からその姓と  の職を譲り受け、強力な軍団を率いて<sup>c</sup>武田信玄や北条氏康などと戦った。<sup>d</sup>甲斐国の武田氏や駿河国の今川氏は守護家の地位を守り抜きながら、さらに戦国大名として発展をとげた珍しい例である。しかし、<sup>e</sup>武田氏も今川氏も最後は織田信長に滅ぼされた。一方、<sup>f</sup>伊勢宗瑞をはじめとして、尾張国の織田氏、美濃国の斎藤氏、近江国の浅井氏、越前国の朝倉氏などは下剋上の例であり、守護などの主家をおしのけて戦国大名になった。加賀国では一向一揆が守護の  氏を倒し、「百姓のもちたる国」といわれた。中国地方では毛利氏が戦国大名として発展した。この毛利氏は、鎌倉幕府の草創期に活躍した大江広元の子孫である。毛利氏は宝治合戦で  に敗れたのち、安芸国に地頭として土着した。その後、元就の代にいたり、中国・北九州諸国守護の大内義隆が家臣の陶晴賢に滅ぼされた機をとらえて、この晴賢を元就が滅ぼし、<sup>h</sup>中国地方の覇者となった。四国地方では土佐国の地頭である長宗我部氏が土佐国を統一し、元親の代には四国統一の勢いをみせた。九州地方では、<sup>i</sup>モンゴル軍の襲来に際して合戦の指揮をとった少弐氏が、大内氏におされて衰退する一方、豊後国などの守護である大友氏や薩摩国などの守護である島津氏が戦国大名に成長した。

問1 下線部 a の伊達氏の地頭としてのはじまりは、1189年の合戦で戦功を立て、その恩賞に地頭職を得たことにあった。源頼朝はこの合戦にみずから出陣したが、この合戦で頼朝が戦った相手は誰か。つぎのア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 藤原秀衡      イ 平宗盛      ウ 源義経      エ 藤原泰衡

問2 下線部bの頃に伊達氏が制定した法令をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 新加制式

イ 塵芥集

ウ 早雲寺殿廿一箇条

エ 陸奥話記

問3 空欄  にあてはまる職名をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 関東公方

イ 侍所別当

ウ 関東管領

エ 鎮守府將軍

問4 下線部cに関連して、正しい記述をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 長尾景虎と武田信玄は信濃国の支配をめぐって戦った。

イ 長尾景虎と北条氏康は越後国の支配をめぐって戦った。

ウ 武田信玄は源頼朝の子孫である。

エ 北条氏康は北条時政の子孫である。

問5 下線部dに関連して、誤っている記述をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 甲斐国にも駿河国にも金山があり、金を産出した。

イ 武田氏も今川氏も源氏である。

ウ 武田氏も今川氏も鎌倉時代から守護の職にあった。

エ 武田氏も今川氏も分国法を制定した。

問6 下線部eに関連して、つぎのア～エを最も古いもの(1)から最も新しいもの(4)まで年代順に当てはめ、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 長篠の戦い

イ 桶狭間の戦い

ウ 天目山の戦い

エ 三方ヶ原の戦い

問7 下線部 f の伊勢宗瑞によって滅ぼされたものをつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 扇谷上杉家    イ 山内上杉家    ウ 古河公方    エ 堀越公方

問8 空欄  にあてはまる名をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 斯波                    イ 富樫                    ウ 京極                    エ 土岐

問9 下線部 g の大江広元は守護・地頭制度を確立する政策を源頼朝に提案したといわれ、頼朝はその広元の提案にもとづいて朝廷と交渉し、それを実現させたと伝えられている。このとき頼朝と交渉した朝廷側の人物をつぎのア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 鳥羽天皇            イ 高倉天皇            ウ 後白河天皇            エ 崇徳天皇

問10 空欄  にあてはまる人名をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 北条時頼            イ 北条貞時            ウ 北条時宗            エ 北条義時

問11 下線部 h の大内義隆について、正しい記述をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 義隆が滅ぼされたのち、勘合貿易は大友氏や島津氏によって継続された。

イ 義隆はフランシスコ＝ザビエルの布教活動を保護し、みずからキリスト教に改宗した。

ウ 大内氏は応永の乱に敗北したのち、再び興隆し、義隆の代に最盛期を迎えた。

エ 義隆が本拠とした萩には京都から禅僧や貴族が来住し、学問・芸術が興隆した。



問12 下線部 i のモンゴル軍襲来の時点における少弐氏の役職をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 大宰帥            イ 鎮西探題            ウ 九州探題            エ 鎮西奉行

〔Ⅲ〕 つぎの1～5の史料を読み、下記の問いに答えよ。

1. (第二条)一、の外ほかに、日本人異国え遣し申す間敷候まじく。若し忍び候て乗まいり候ものこれ有るに於ては、其ものは死罪その、其船并ならびに船主共に留置き、言上仕るべきの事。  
言上仕るべきの事。  
〔徳川禁令考〕

2. (第三条)下田、港の外ほか、次にいふ所の場所を左の期限より開くべし。(略)神奈川港を開く後六箇月にして下田港は鎖すべし。此箇条の内に載たる各地は亜墨利加人に居留をゆるすべし。(略)双方の国人、品物を売買する事総て障りなく、其弘方等に付ては日本役人是これに立会はず。  
〔大日本古文書、幕末外国関係文書〕

3. (第一条)一、諸国百姓、刀、脇指わきざし、弓(槍)、やり(銃)、てつほう(類)、其外武具のたぐひ所持候事、堅御停止候。(略)  
(第二条)一、右取(重)をかるべき刀、脇指、ついえにさせらるべき儀にあらざ候の間、今度大仏御建立くぎの釘、かすがひに仰せ付けらるべし。然れば、今生こんじょうの儀は申すに及ばず(1)、来世までも百姓たすかる儀に候事。  
〔小早川家文書〕

4. (略)此度聖堂御取締嚴重に仰せ付けられ、柴野彦助・岡田清助儀も、右御用仰せ付けられ候事に候へば、能々此旨よくよくこのむね申し談じ、急度門人共を相禁じ、猶又なおまた、自門に限らず、他門あわに申し合せ、正学講窮致し、人才取立て候様相心掛申すべく候事。  
〔徳川禁令考〕

5. (第七条)一、武家のは、公家当官の外たるべき事。  
(第十六条)一、紫衣しえの寺住持職、先規希有の事也。近年猥りに勅許の事、且は脇次わきざしを乱し(2)、且は官寺けがを汚し、甚だ然るべからず。(略) 〔御当家令条〕

問1  に入る語句をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 貿易船            イ 朱印船            ウ 往来船            エ 奉書船

問2  に入る語句をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 長崎            イ 新潟            ウ 兵庫            エ 箱館

問3  に入る語句をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 異学            イ 陽明学            ウ 洋学            エ 蘭学

問4  に入る語句をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 規式            イ 官位            ウ 昇進            エ 所務

問5 3の史料と同じ年の事項をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 海賊取締令(停止令)の発令  
イ 太閤検地の開始  
ウ 秀吉の関白就任  
エ バテレン(宣教師)追放令の発令

問6 4の史料が出されたときの将軍をつぎのア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 徳川家慶            イ 徳川家重            ウ 徳川家治            エ 徳川家斉

問7 5の史料の説明として誤っているものをつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア この法令を起草したのは金地院崇伝であり、かれは徳川家康に仕えて寺社および外交関係の事務を担当した。

イ この法令が出されたときの天皇は後陽成天皇であり、徳川家康の娘和子を女御に迎え入れた(のち中宮)。

ウ この法令が出されたときの将軍は徳川秀忠であり、その孫は明正天皇であった。

エ この法令は、元和の武家諸法度の13か条よりも多い17か条から成っていた。

問8 下線部(1)の大仏が建立された寺院の所在地と名をつぎのア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 奈良・興福寺

イ 奈良・東大寺

ウ 京都・方広寺

エ 京都・大徳寺

問9 下線部(2)に関連して、のちに紫衣事件が発生するが、この事件について80字以内で説明せよ。句読点も1字に数える。算用数字は1マスに2字記入してもよい。

下書き用(横書き, 20字×4行=80字)


〔IV〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

今から110年前、1903年10月、衆議院議長であった片岡健吉が死去した。

片岡は、1843(天保14)年土佐藩士の子として生まれた。<sup>(1)</sup>藩主<sup>(2)</sup>の小姓役、郡奉行などをつとめたのち、大軍監として戊辰戦争に従軍した。板垣退助らとともに会津若松城の攻略などに功績をあげ、同藩の大参事に任じられた。板垣らの土佐藩兵の先導役をつとめた者のなかに三春藩の下級の武士であった  らがいた。

1871年にイギリスに留学し、ヨーロッパ各国を視察して、1873年に帰国した。帰国後、海軍中佐に任じられたが、征韓論問題<sup>(3)</sup>で  らと対立した板垣らとともに下野した。

帰郷後、板垣らと共に立志社をおこし、翌1874年にこれを中心にして大阪に愛国社を結成して、自由民権論を全国によびかけた。1877年、西南戦争中、京都の行在所に民選の議院設立を求める建白書を提出したが、受理されなかった。また、立志社内の挙兵論者に連座して逮捕され、禁獄の刑に処された。

1879年に高知県会の議員に当選し議長に選ばれたが、まもなく辞職した。1880年に大阪で開かれた愛国社の大会で議長をつとめ、閉会后、 とともに国会期成同盟を代表して国会開設請願書を太政官や元老院<sup>(4)</sup>に提出しようとした。しかし、これも受理されなかった。

1881年に片岡は板垣を総理(党首)とする自由党の結成に参加した。しかし、自由党は、翌1882年の板垣の洋行に対する内部批判、政府の弾圧、政府の弾圧<sup>(5)</sup>に対する直接行動(運動の急進化)、運動資金不足などにより、1884年に解党した。

国会開設の時期が近づくと、民権派の間で運動の再結集がはかられ、1886年に旧自由党の星亨らが大同団結をとなえた。翌1887年には三大事件建白運動<sup>(6)</sup>がおこった。これに対し政府は保安条例を公布して、上京した片岡らの民権派に東京から退去することを命じた。片岡はこれを拒否したため、軽禁固の刑に処された。

大日本帝国憲法の発布にともなう恩赦により出獄した片岡は、立憲自由党の創立に尽力した。1890年には第1回衆議院議員選挙に当選した。第1回帝国議会では、政府<sup>(7)</sup>と対立したが、植木枝盛らとともに政府と妥協して予算案の成立に尽力し、1891年に立憲自由党を脱党することとなった(のち復党)。1891年の末、第2

回帝国議会が解散に終わったあと、第2回衆議院議員選挙(1892年2月)では政府<sup>(8)</sup>の干渉をうけて落選した。しかし、開票の不正を裁判に訴えて当選が認められた。以後、1903年の第8回衆議院議員選挙まで片岡は連続して当選した。この間、1898年から1903年まで衆議院議長をつとめた。

日清戦争後、片岡は第2次  内閣と自由党との提携を進め、1898年には自由党と進歩党との提携による憲政党の結成に参加した。その後、1900年には <sup>(9)</sup>を総裁(党首)とする立憲政友会の結成に参加した。しかし、1903年、第18回帝国議会で同党が政府と妥協したために、尾崎行雄<sup>(10)</sup>らとともに同党を脱党した。

片岡は、幕末・維新时期に功績をあげ、新政府に入ったものの、その後下野して自由民権運動を展開し、また帝国議会では民党の議員として、藩閥政府と対立した。しかし、日清戦争後、藩閥指導者との提携を進め、政党の政権参入や政権担当政党の結成に努めた。こうして片岡は、死去に際して、正四位・勲三等に叙せられ、旭日中綬章を授けられたのである。

問1 下線部(1)に関連して、もっとも関係のうすい人物をつぎのア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 田中光顕      イ 中岡慎太郎      ウ 高杉晋作      エ 坂本龍馬

問2 下線部(2)に関連して、この土佐「藩主」をつぎのア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 松平慶永      イ 伊達宗城      ウ 安藤信正      エ 山内豊範<sup>とよのり</sup>



